

バングラデシュ首都ダッカ近郊の橋梁事業が竣工

大林組・
清水建設・
JFEエンジニアリング・IHI
インフラシステムJV
がバングラデシュ・ダ



ッカ近郊で建設を進めていた「カチプール・メグナ・ Gumティ第2橋建設工事および既存橋改修事業」が竣工した一写真。

ダッカ・チッタゴン間の国道1号線上に位置するカチプール橋（長さ397m）、メグナ橋（同930m）、Gumティ橋（同1,410m）の改修と、それぞれの既存橋に並行する第2橋（細幅箱桁橋）の建設などによって、既存橋梁の延命化と急増する交通需要への対応を図る、このプロジェクトは日

大林・清水・JFE・IHI・JV

本の円借款によるODA（政府開発援助）案件。

既存3橋はバングラデシュの人口の3割、GDP（国内総生産）の5割を占める経済回廊に位置。急速な経済の発展に伴い交通量の増加が課題となっていたが、カチプール橋は既存橋の4車線に並行する第2橋の4車線を加えた8車線化を実現。メグナ橋とGumティ橋も既存橋の2車線に第2橋の4車線を加えて6車線化した。

2016年1月に着工した後、治安の悪化により工事が約3カ月にわたって休止したが、JVの総力を挙げて工事の遅れを取り戻したという。

請負金額は約900億円。設計はオリエンタルコンサルタンツグローバルほか7社が担当した。



テープカット